

レファレンス だより

2012年11月号
No. 120

福岡市総合図書館
図書サービス課 相談係
☎092-852-0632



レファレンス・サービスとは、情報を求めて来られた利用者に対して、図書館の資料等を活用して、必要としている情報を探すお手伝いをするサービスのことで、法律相談や物品鑑定などといったお答えできない質問もあります。また、質問によっては回答に日数がかかるもの、資料や情報が提供できない場合もありますのでご了承ください。

■レファレンス受付件数（2012年8月分）

参考	人文	社会	自然	郷土
111	1949	447	488	395
国際	国連	こども	ホピュラー	合計
497	99	1925	1315	7226

（開館日 26日 一日平均 278件）



今月のレファレンス徹底解説！

Q：福岡県の立花山に城があり、7歳の少女が城主になったという。姫について詳しく知りたい。

■事典を確認する

『福岡県百科事典 下 た～わ』（西日本新聞社 1982年）2階 C12 R291.91/7

福岡市東区と糟屋郡新宮町・久山町の境界にある立花山には、戦国時代に大友貞載（さだとし）が築いた立花山城（立花城）があったとある。黒田長政が筑前に入ると廃城となり、現在は石垣が数力所残るだけとあり。立花山は標高367.1メートル。山頂からは能古島・玄界島が一望でき、玄海国定公園にも指定されている。ハイキングコースとしても楽しめる。とあり。

■日本史関連の資料をさがす

『筑前立花城興亡史』（吉永正春/著 西日本新聞社 1998年）2階郷土 K2 K226.1/261/7

筑前国の歴史に大きく関わってきた立花山城をめぐる興亡史。「閨千代（ぎんちよ）に立花城督を譲る」の項目に、大友宗麟より城を譲られた戸次鑑連（のちに立花道雪と改名）は1人娘であった閨千代に立花城督を譲ったとある。そうは言っても当時彼女はまだ7歳の少女だったため、実権は道雪にあったとある。

『九州戦国の女たち』（吉永正春/著 海鳥社 2010年）2階郷土 K1 K280/380/4

閨千代は男子にめぐまれなかった父親から、女ながらも立花城の後継者として城主教育を受けたとある。色白の美人に育った彼女は13歳で婿を迎えるが、夫となった宗茂との仲は初めこそよかったものの、お互いの性格の強さから衝突が多かったとあり。

■福岡県立図書館の郷土資料データベースを使ってみる

「福岡県立図書館」【<http://www.lib.pref.fukuoka.jp/>】>「郷土資料室」>「福岡県関係人物文献検索」

「立花閨千代」で検索すると、以下の資料にも記載があるとわかる。

『九州文学散歩 柳川編』（原達郎/著 財界九州社 1991年）閉架書庫 910.29/ハ

「宗茂公と閨千代姫をめぐる物語」の項目ある。立花宗茂と閨千代について、閨千代が男勝りの気性と7歳で立花城主を継いだというプライドからか、婿養子の宗茂と折り合いが悪かったことが定説となっているとある。この夫婦の様子が見える小説に、『乱離の風 若き日の立花宗茂』（滝口康彦/著 文芸春秋社 1981年）、『火の槍 立花宗茂』（原田種真/著 叢文社 1989年）の紹介ある。また、『立花宗茂』（古賀敏夫/編著 九州出版社 1973年）では不仲の原因を、朝鮮の役で肥前名護屋城に参った閨千代に豊臣秀吉の目が止まり、寵愛を受けたためと描かれており、創作ではあるが宗茂のゆかりの深い柳川では大変な物議を醸し出したとある。



その他にもこんな質問がありました

Q：「宗像三女神」とはなにか？ 記載のある本をみたい。

■事典

『日本神祇由来事典』（川口 謙二／編著 柏書房 1993年）2階 C9 R162.1/カ

「宗像三神」に系譜、神話等の記述がある。宗像三神とは奥津島比売命（多紀理毘売命）、市寸（杵）島比売命（狭依毘売命）、多岐津比売命の総称。天照大神と須佐之男命が天の安河原（あめのやすのかわら）で誓約を行った際、天照大神が須佐之男命の十拳剣（とつかのつるぎ）を三段に折って、天真名井（あめのまない）の聖水をふりすぎ、噛んで吹き棄てた。その息から生まれた三女神が宗像三神と称される神々である。また宗像三神は住吉三神と同様に、海の神・航海安全の神・運輸交通の神としての信仰があるとある。

『諸神・神名祭神辞典』（矢部 善三／著 千葉 琢穂／編著 展望社 1991年）2階 C9 R172/ヤ
宗像神社の祭神として記述がある。

■郷土雑誌

『ふるさとの自然と歴史』（歴史と自然を守る会 1992年12月・1993年1月合併号）郷土雑誌

『むなかた電子博物館紀要』（宗像市 第2号）郷土雑誌

上記の雑誌にも記述あり。

Q： 日本において、1日3回食事をする習慣はいつ頃どのように始まったのか。

■事典

『日本を知る事典』（大島 建彦／[ほか]編 社会思想社 1980）2階 D7 R383.8/ツ

昔は「朝夕のおもの」といい、朝十時頃と夕五時頃の1日2食だったが、人間生活が複雑になり労働時間が長引くにつけ、2食では腹がもたなくなるため3度目の食事が発生した。1日3度の食事が固定するのは江戸中期以後とある。夜討・朝駆と戦闘時間が延長したところへ行軍という労働が加わった武家では、朝・夕食の間に弁当すなわち中食が入り、大阪のような商業都市では昼食が主餐で夕食の後に夜食が入る。また農家は重労働のため3食が普通で農繁期は4、5回と増える、など詳しい説明がある。

■一般資料

『図説江戸時代食生活事典』（日本風俗史学会／編 雄山閣出版 1989年）2階 D19 383.8/ズ*

古来から江戸初期までは原則として1日2食だったが、元禄前後には1日3食となっていたようであるとのこと。僧堂でも原則2食ではあったが、早朝の点心と中食に当たるものが本体で、午後の食事は例外と考えられ、また籠りの僧は昼1食だけだが毎日勤行が済んでからの間食は黙認されていたと解説。農民は肉体労働のため最少4回、農繁期には5～6回に分けて食事を取っていたとある。

『日本食物史 上 古代から中世』（雄山閣出版 1994年）2階 D19 383.8/ニ

中・近世の資料より食事に関する記述を多数引用し論じる。1日2食を原則的とする風習について詳しい説明がある。3食は鎌倉から室町にかけて公家・僧侶および上流武家、京都あたりの住民の間の習慣でもあったが、中間食は賤しい者に始まったとして上流では軽視されていたようだということ、昼食と称するのを避け、朝飯・夕飯・夜食とよんだという説など、様々な文献を挙げ解説している。

Q： ドクターフィッシュとはなにか？ 生態や由来などを知りたい。

■図書

『へんないきもの』（早川 いくを／著 バジリコ 2004年）1階ポ65 480.4/ハ

乾癬という皮膚病を治療する魚として紹介されている。トルコのシワス県、カンガルの温泉に棲み、皮膚病の患部だけをきれいに食べてくれる。ガラ属というコイの仲間で、体長14cmほど。雑食で普段はプランクトンなどを食べている。西アジア、チグリス・ユーフラテス川の流域などに生息とあり。

■雑誌記事

『月刊アクアライフ 2006年4月号』（エムピージェー）閉架書庫

体長 8~10cm。コイ科で学名は Garra sp.といい、皮膚病治療のために温泉に入浴している人の体表に口を使って貼り付き、古い皮膚や患部を剥ぎ取っていくが、痛みは感じないそうである。魚たちは、元々は地域を流れる川に生息していたものが、おそらく高水温（37℃くらい）の影響もあってあまりに貧栄養的な環境のため、そこに来る人間の皮膚を餌にする習性を身に付けたのではないかとされている。川と温泉はつながっていて、繁殖は川で行なうが詳しい繁殖行動については不明。

『日経サイエンス 日本版 2007年8月号』（日経サイエンス社）閉架書庫

ドクターフッシュが人間の皮膚を食べるようになったのは、他に選択肢がなかったからだが、これは非常に珍しい生態学的適応の例であると書かれている。コイ科の魚は適応性のよさで知られ、温泉の魚は数千年後に別の種に進化する可能性もあるという。

Q：世界のジェット機市場における、日本企業の動きについて知りたい。

■図書

『よみがえれ！国産ジェット』（杉山勝彦／著 洋泉社 2008年）1階ポ61 538.68/ス

長く欧米企業の下請けに甘んじてきた日本の航空機業界にあって、小型旅客機分野で国産ジェット機復活をめざす、三菱重工のMRJプロジェクトについて論じている。また、さらに小型の個人や企業向けビジネスジェット機の市場に参入する、本田技研工業（ホンダ）の挑戦も紹介している。

■雑誌

『週刊東洋経済 2008年9月20日号』閉架資料

「ボーイングvs.三菱vs.HONDA」として、世界の航空機ビジネスを特集している。この3社以外にも、各国の企業が時に連携しながら競争を繰り広げていることがわかる。

『日経ものづくり 2012年4月号』2階MII-5

「ブレーク前夜 HondaJet」として、ホンダの小型ビジネスジェット機開発を特集している。機体の構造や生産設備について、また顧客への引き渡しに近づいた現在に至る開発の歴史もわかる。

■新聞記事

新聞記事データベース「日経テレコン」で社名等から検索すると、以下のような記事が見つかる。

2011/11/7 日経産業新聞 2面 「第3部飛躍する航空機産業(1)苦節50年「大国」に挑む」

2012/7/13 日経産業新聞 14面 「MRJ100機、米地域航空が購入、三菱航空機、追加受注狙う」

2012/7/3 日本経済新聞朝刊 15面

「ホンダの小型ビジネスジェット、中国・ブラジルも開拓、世界シェア15%目指す」

Q：日本の東海道新幹線事業に世銀（世界銀行）から貸付があったそうだ。記載のある資料はあるか。

■所蔵資料

『A Guide to the World Bank（世界銀行ガイド）』（The World Bank Washington, D. C. 2007年）
2階 国連A1 F070.03/ '07

Appendix B（付録 B） Timeline of World Bank Group History（世界銀行グループ歴史年表）の中に、「1961 The Bank loans \$80 million to Japan to finance the bullet train.（1961年日本の新幹線事業へ世界銀行から8000万ドル融資）」の記載あり。

『世界銀行と日本』（世界銀行東京事務所 1998年）2階 国連A1 WB/ '98

「日本に対する世界銀行の貸付」の資料の中に、東海道新幹線事業のため日本国有鉄道が世銀より借入れをしたことが記載されている。

■インターネット

「The world bank」【<http://www.worldbank.org/>】

世界銀行のHP内検索ボックスに「bank loans to Japan」入力>Japan-World Bank's Loans to Japan>1961年5月2日東海道新幹線事業への貸付契約/保証契約調印日を確認できる。

また、同じサイトで>Japan and the World Bank>Tokaido Shinkansen Bullet train line>

写真付で当時の東海道新幹線にまつわる話などが掲載されている。

※ 棚番号は総合図書館のもので、本によっては、分館も含めて複数冊所蔵しているものがあります。



今月の一冊！

『日本の自然災害』

(国会資料編集会／編集 国会資料編集会 1998年) 2階 E1 R451.98/ニ

昨年の東北大震災以来、過去の地震について、多くのお尋ねがあり、この資料をよくご案内しています。地震だけでなく、日本における有史以来の自然災害を網羅的に記述してあります。日本は古来、多種多様の自然災害にしばしば襲われてきた「災害列島」です。文献や記録によって、さまざまな被害の状況や特徴が述べられています。また、阪神・淡路大震災からの教訓として、現代の災害に見られる諸問題にも言及してあります。このシリーズは他に下記の3冊が出版されています。

『近代世界の災害』(国会資料編集会／編集 国会資料編集会 1996年) 2階 E7 451.98/キ/

『日本の自然災害 1995～2009年 世界の大自然災害も収録』(日本専門図書出版 2009年) 2階 E1 R451.98/ニ

『日本の自然災害 M8.0大地震襲来 日本は、家族・住居は』(日本専門図書出版 2010年) 2階 E1 R451.98/ニ

使ってみました⇒江戸時代に起きた地震を調べる！

この資料の「日本の大地震一覧」に、江戸時代は18の大地震があげられ、そのうち「元禄地震」「宝永地震」「善光寺地震」「安政東海地震」「安政南海地震」「安政江戸地震」については、各地の被害状況も詳細に述べられています。「江戸時代以後に日本沿岸を襲った津波一覧」もあり、地震の規模や津波の最大高さ、被害概要も記載されています。



図書館活用術 ～福岡県立図書館の窓口で本の返却ができます～

平成24年10月1日から総合図書館・分館の窓口で借りた本が福岡県立図書館でも返却できるようになりました。また県立図書館の窓口で借りた本を総合図書館・分館で返却ができます。返却本は各図書館のカウンター窓口へお持ちください。

なお、附録やDVD、CD、ビデオテープ、相互貸借資料、遠隔地サービス資料やその他の図書館資料については、ご利用になれませんのでご注意ください。

また、各窓口でお預かりした資料は、それぞれの図書館に回送後、返却処理をおこないますので、余裕をもって窓口へお持ちください。

今年も



「子ども読書フォーラム」が開催されます！

2012年11月17日(土) 午前11時～午後4時
場所 あいれふ(中央区舞鶴2丁目)

学校や図書館、地域で子どもの読書に携わるボランティア団体や教育関係者などが協力し、絵本の読み聞かせ、紙芝居、劇、手遊びなど読書に親しみが湧いてくるようなさまざまなイベントを行います。子どもたちといっしょに、読書の秋を楽しみましょう。

